

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第3号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
5月	1	17.4	17.9	0.6	23.5	25.4	1.8	11.8	10.9	-0.9	31.5	0.0	0	29.6	47.6	161
	2	18.1	17.0	-1.1	24.2	24.6	0.4	12.6	10.0	-2.6	33.3	8.5	26	29.7	47.1	159
	3	18.5	21.3	2.8	24.7	29.2	4.6	13.0	15.2	2.2	33.4	0.0	0	30.0	41.5	138
	4	18.9	21.6	2.7	25.1	26.4	1.2	13.4	16.3	2.9	28.9	13.5	47	30.2	23.5	78
	5	19.6	20.3	0.7	25.9	28.6	2.7	14.1	12.6	-1.5	23.1	0.0	0	31.0	61.2	197
	6	20.5	21.5	1.1	26.8	27.4	0.5	15.1	16.7	1.7	26.8	15.5	58	37.6	36.4	97
6月	1	21.3	23.6	2.3	27.6	29.3	1.7	16.1	19.7	3.6	25.4	4.5	18	29.5	26.4	89

5月の気象は、気温は平年より2ほど高く、降水量は平年の21%と極端に少なく、日照時間は平年比130%でした。

2. 情報田生育概況（セタコシヒカリ、6月5日調査）

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	51.7	450	10.7	32.1	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は前年比84%と短い。 ・茎数は平年比85%と少ない。 ・葉色は前年よりかなり薄い。 ・葉齢から見た生育は前年より遅れている。
	前年値	61.1	529	11.7	37.1	
	前年比（差）	84%	85%	-1.0	-5.0	
	平年値（参考）	57.9	665	11.3	40.7	
	平年比（差）	89%	68%	-0.6	-8.6	

注1) 栽培地は平坦部。4月8日移植。その他の耕種概要は、稲作情報第1号を参照。

注2) 平年値はH21～H30の10年間の平均。なお、H30より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

3. 管内の生育状況

(1) セタコシヒカリ

茎数は先週の調査時とほぼ変わらず、現在、最高分けつ期に達していると思われます。

葉齢は前年より遅れており、葉色が急速に低下した圃場が多くみられます。情報田では6月4日に幼穂長が5.0～6.0mmとなっており、すでに幼穂形成始期を過ぎており（平年は6月10日前後）、穂肥施用

時期となっています。

4月7～8日に移植された管内の多くの圃場でも、幼穂形成期を迎え、穂肥施用時期になっていると考えられます。

穂肥時期は、平年より1週間ほど早まる見込みのため、遅れないように注意してください。すでに幼穂がみられるため、中干しは中止し、間断灌水を行ってください。

(2) 普通期水稻

気温がやや高く、日照時間は平年より長いいため、苗の伸長はやや遅い傾向傾向です。

4. 今後の管理

(1) セタコシヒカリ

穂肥の施用

穂肥施用時期となっています。穂肥の施用時期や量は、圃場毎で異なるため、穂肥診断に基づき、穂肥を施用しましょう。

特に本年は、穂肥施用時期が**1週間**ほど早まっており、早めの穂肥診断を行うよう努めてください。なお、穂肥診断は、表2、3を参考にしてください。

表2 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0～3日	3～6日	6～8日	8～11日	11～14日
幼穂長(mm)	1mm	1～3mm	8～12mm	15～20mm	25～30mm	30mm以上
草丈(cm)	～72cm	～75cm	～78cm	～80cm	～83cm	～
穂肥の施用時期				←→		

例) 幼穂長15～20mmの時(出穂前18日頃)が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の**幼穂長が1.0mmの場合、その5日後に穂肥を施用する。**

表3 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD(値)	幼穂長(mm)	草丈(cm)	施用量<ゴールド有機50>
		群落	単葉				
穂肥施用時	淡い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0～3.3	3.5～3.8	34.0～36.0	5	78まで	
	標準	3.3～3.7	3.8～4.2	36.0～39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	15	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の**葉色(SPAD)が36.0～39.5、草丈が80cm以下**であれば、**ゴールド有機50を10kg/10a施用する。**

水管理

すでに幼穂がみられることから、中干しを中止し、今後の水管理は間断灌水とします。幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるため、断水時期は田面が白乾することがないように注意を徹底してください。また、穂肥施用の3～5日前から湛水するなど、穂肥施用の準備を行って下さい。

その他

出穂直前や出穂期に畦草の除草を行うと、圃場内にカメムシを呼び寄せ、斑点米カメムシによる被害を助長するため、畦畔雑草や圃場周辺の除草対策(刈払い)は6月15日までに済ませましょう。